

今年で10回目を迎える「甲府ジュエリーマーケット」は、出展74社で4月2日（土）と3日（日）の2日間、甲府駅北口よっちゃばれ広場テント会場で開催された。

主催のジュエリーストーンクラブ3代目会長、カラーズ長谷川孝一氏に話を聞いた。



以前の山梨県宝石研磨工業協同組合若手の青研倶楽部からの流れを持つクラブで、2011年10月に甲府市内の宝石販売・加工研磨13社が自慢の宝石を展示販売する「第1回甲府ジュエリーマーケット」を山梨県地場産業センター「かいてらす」駐車場で開いたのが始まり。

甲府の宝飾産業は約1000年前に昇仙峡の奥地、金峰山で水晶の原石が発見されたことが起源とされ、水晶の産地として世界中に名を馳せた「甲府」。いまや世界に誇るジュエリー産地として繁栄している。

米国アリゾナ州トゥーソンで町中が会場になる年1回開かれる世界最大の宝石と原石のショーをモデルにし地場産業であるジュエリー産業の復活と産地「甲府」を世界中にPRすることにより集まる人々による山梨の活性化を目的とし、やがてこの輪を少しずつ大きくしながら最終的に「アジア最大のジュエリーショー」を目指しますとの事。

出展品は長年先輩方の時代より世界中から集められた原石をはじめとして、甲府ならではの歴史を感じることでできる原石、そして世界でも高く評価されている職人による作品を展示。海外はもとより国内でもこうした原石、鉱物などのコレクターは増えており、ジュエリー市場とは異なる新市場が形成されていますとの事。

晴天の一日目、屋外ならではの開放感のあるジュエリーマーケットに足を運び、心惹かれる石を見つけて、存分に宝石探し、クラフト体験、職人の実演を楽しむことができる内容であった。会場には県内外からも多くのショップが出展し、宝石で溢れかえっていた。2日目は残念なことに雨である、3時に早じまいするとのアナウンスがあったが、人出は衰えず傘をさして熱心に品定めをする多くの人々を見た。



会場から徒歩5分、南側にある「山梨ジュエリーミュージアム」では今年2月22日に発行された「切手を愛でる グリーンティング切手【宝石・鉱石～自然の芸術～】発行によせて」が6月20日まで開催され



ており、日本の宝石学の普及に寄与した故・近山晶氏の宝石・鉱物切手コレクションと関連する宝石・鉱物が美しく紹介されていた。

同時に「ミュージアムコレクションとつくり手たち」も開催されており、原石のセレクトや研磨からはじまり、手づくりの貴金属パーツ等、細部に至るまでの宝飾の技術、デザイナーの意図や制作過程などの背景を知ることが出来る内容





になっていた。

「山梨ジュエリーミュージアム」に業界人ならば一度は足を運ぶべきです。学芸員が説明してくれます。

